

はにい

紙のおもちゃ

平成25年10月30日

技術室。グループで楽しそうにおしゃべりしながら制作している中学3年生です。

「ここうまくいかないな。」「こっち重ねたら?」「え、どうやんの?」「このうしろでさ、こうやって。」

話している内容は、制作のこと。誰一人として手を止めている者はいません。

この雰囲気。

制作に意識のすべてを注ぎ、丁寧に自分の作品を創り上げようとしている子ども達。ここまで夢中にさせる秘訣はなんのでしょうか。放課後、先生にインタビューして教えていただきました。



—— どういう授業なんですか？

「『おもちゃを作ろう』という授業です。1学期に『動きを伝える仕組み』を勉強しまして、その知識を使って個々にオリジナルのおもちゃを作っています。」

—— 自分のオリジナルってところが夢中になる理由でしょうか。

「そうですね、それもありますけど、この授業は家庭科の保育の授業と連携させてまして、今度保育園に訪問に行くときに持っていくおもちゃを創っているんです。子どもが実際に遊ぶことになるおもちゃなんです。」

—— なるほど。それは真剣になりますね。家庭科との連携ですか。

「家庭科では、子どもの特徴などを勉強して、例えば、小さいものがついてると誤飲してしまうとか、興味を引きやすい色だとか、そういったことを学んで彼らは創っているんです。それと、紙というのがいいんです。」

—— それはどういうことですか？

「作るのが難しいと諦めてしまうし、簡単すぎても飽きてしまう。紙は試行錯誤しながら題材の難易度をいろいろ考えられるんですよ。各自の能力にも合わせられる。」

—— 紙は技術科でよく使うんですか？

「いいえ、以前は木でやってたんですけど、早く作れるものがないというのもあって、紙を考えました。」

—— いつも、あんな風にワイワイしゃべりながら作業しているんですか。

「動きを伝える仕組みを考えながら創るっていうのは難しいので、学び合いながらやってますね。」

秘訣は、授業の目的、学びのつながり、課題の難易度、そして、教師の熱意でしょうか。